

# 西南一粒の麦基金とは

## 設立の経緯

一般財団法人西南一粒の麦基金は、西南学院高等学校同窓会から生まれました。

西南学院創立100周年を翌年に控えた平成27(2015)年、高校同窓会では、100周年に向け積み立てていた資金をどう使うかが議論となり、高校同窓会に「積立金検討委員会」を設置し、積立金の使い方について検討を始めました。

数回にわたる委員会での議論の結果、「基金を設立し、青少年育成のための事業と寄付の2本柱で有効に使っていく」との方針をまとめ、「基金の管理及び事業と寄付の実施を行う法人格をもった団体を設立する」ことが最適とし、積立金を拠出金として財団法人を設立する案をまとめあげました。その案を西南学院高等学校同窓会評議員会に諮り、承認を受け、平成28(2016)年5月に設立いたしました。

## 設立への思い

西南学院は、大正5(1916)年に宣教師C.K.ドージャーにより創立され、創立後100年の間に、多くの人材を社会に輩出してきました。いわば、C.K.ドージャーが蒔いた一粒の麦が穂を実らせ、多くの麦を育てたと言えます。

C.K.ドージャーの愛、許し、平和を尊ぶキリスト教精神により育てられた、西南学院高等学校卒業生は、創立100周年を機に、今度は自分たちが新たな一粒の麦となり、C.K.ドージャーの精神を継承し、将来の日本、世界を担う青少年の健全な育成、社会に貢献できる人材の育成をしようと考えました。

その思いを実現すべく設立したのが、この「西南一粒の麦基金」です。

## 理事長あいさつ

当財団は、自ら青少年育成に取り組む「育成活動事業」、青少年育成の活動を支援する「育成支援事業」、そして当財団の趣旨に沿っていると考える「社会貢献事業」の3つを柱としております。具体的には、育成活動事業として、無料英語教室「西南一粒の麦 English Academy」の主催、里親家庭で暮らす子ども達の応援を行い、育成支援活動として、今年から中体連と同格の大会となった「ホークスカップ中学生軟式野球大会」の支援を、社会貢献活動として、「日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」への支援を行っています。

「西南一粒の麦基金」のシンボルマークはその名の通り、麦が穂を実らせながら成長していくことを表すデザインとなっております。まだ活動を始めて間もない財団ではありますが、将来はこの麦がもっとたくさんの穂を実らせ、その一粒の麦たちが私たちの想像もつかないような

成長を遂げ、世界に羽ばたいていく…そのような夢を描き、実現していきたいと考えております。そしてそのことが私たちを育ててくれた母校西南学院への恩返し、貢献でもあり、ドージャー先生からスタートした想いのバトンを繋ぐことであると思っています。



理事長 江副 裕紀

最後に、当財団の目的、活動をご理解いただき、私どもの活動を支えてくださる賛助会員を募集しております。私たちと一緒に麦のひとつひとつを大切に育てる、そんな活動へのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。